

取扱説明書

LC-PWM | LC-M-PWM

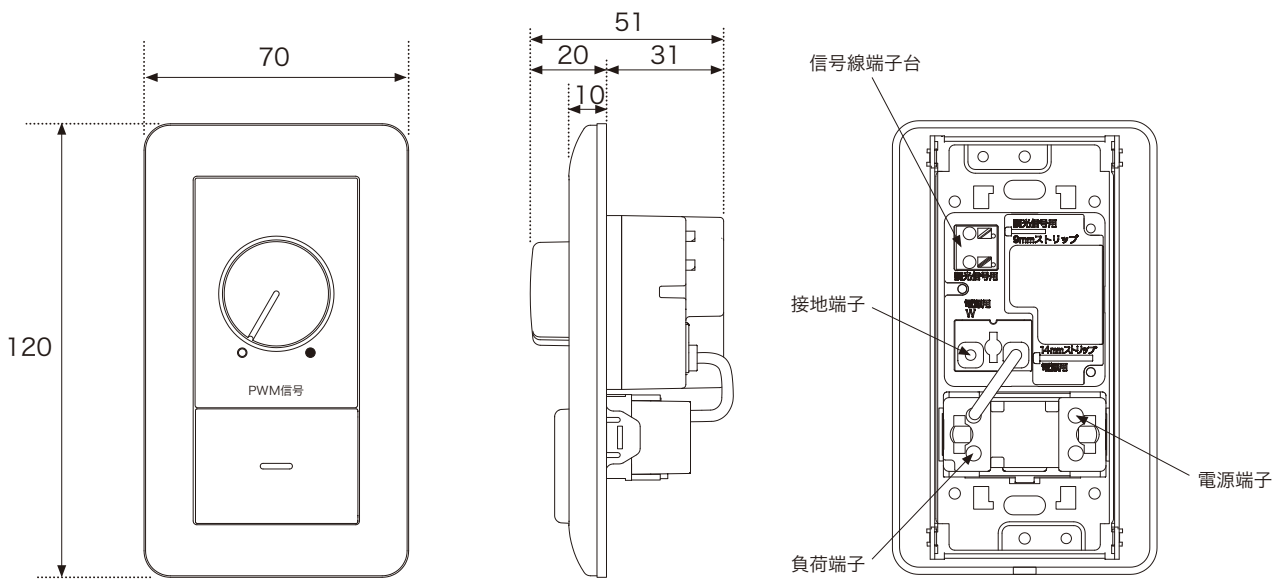
信号線式PWM調光器

本製品を安全にご利用いただくため、取り付け前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

なお、本取扱説明書は必ず保管してください。

製品仕様

単位：mm



製品仕様

定格電圧	AC100V 50/60Hz
適合負荷	トキスター製PWM調光対応器具
最大負荷容量	10A
最大消費電力	1.6W
使用温度範囲	0～35℃
重量	200g

*施工条件によって制限が生じます。

調光範囲	約5～90%
PWM周波数	DC6V 1KHz 最大60mA
JIS C8340/8435	スイッチボックス1個用適合
埋込穴	80mm×50mm 埋込深40mm

化粧プレートとプレート枠は箱底部に同梱しています。

01 ご使用前にお読みください

- ・出荷案内書の記載内容と商品の種類および数量が正しいことをご確認ください。
- ・出荷時には慎重に梱包しておりますが、開封した時に万一製品が破損していた場合はすぐにお知らせください。



警告

- ・配線工事は、必ず工事店又は有資格者に依頼してください。(一般の方の電気工事は法律で禁止されています。)
- ・指定のケーブルをご使用ください。細いケーブルでの接続や不完全な接続は発熱して危険です。
- ・接続する機器の取扱説明書を確認し、仕様の範囲内でご使用ください。
- ・本体の表示および本取扱説明書に記載の容量内で使用してください。誤った使用は本機器や接続した器具の破損、火災や感電の原因になります。
- ・配線した後は、高圧のかかる絶縁測定器などで絶縁チェックを行わないでください。

- ・本製品は屋内専用の壁埋込機器です。水のかかる場所、湿度の多い(結露する)場所には設置しないでください。
- ・風通しがよく、放熱スペースが十分設けられる、周囲温度0～35℃の場所に設置してください。
- ・分解、改造は行わないでください。製品保証の対象外になります。
- ・ケースを開いたり、内部に手を触れたりしないでください。
- ・本製品についての汚れは、中性洗剤を軽く含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーなどは使用しないでください。

02 接続について

本機器はトキスター製PWM 調光器具対応の壁埋込専用調光器です。
PWM 調光対応器具には、本機器で調光可能なタイプと、できないタイプがあります。
調光対応については、カタログや仕様図、弊社ホームページで公開中の対応表をご確認ください。

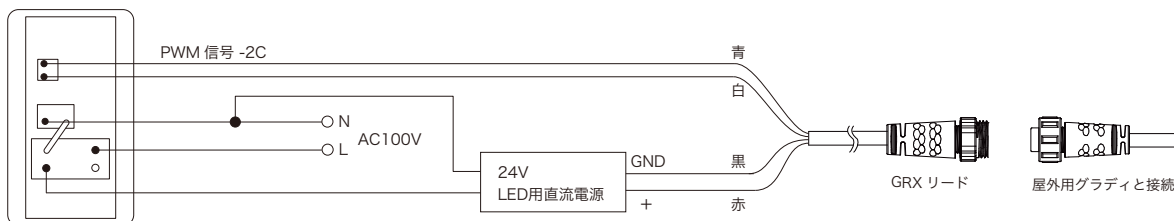
03 設置について

●配線

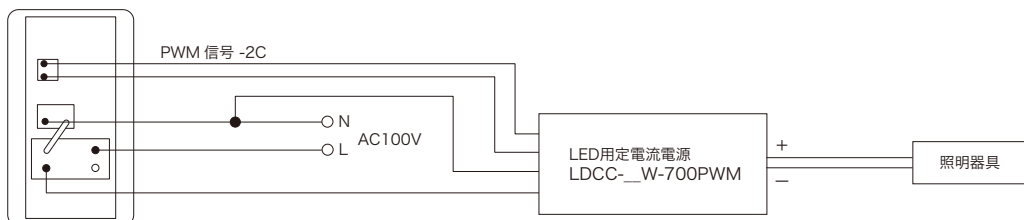
配線は必ず電源を切断した状態で、適合電線を使用し確実に接続してください。
電源線はΦ1.6またはΦ2.0銅単線、調光信号線はCPEVシールド線Φ0.9～Φ1.2です。

施工前に、電線を同梱のプレート枠に通してください（●取り付け参照）。
電源線と同様、適合電線で確実な接続を行ってください。
接続部には確実に絶縁処理を施してください。

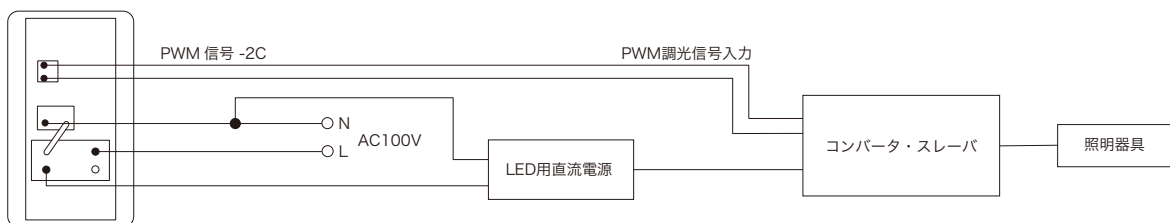
照明器具に直接調光信号を入れる場合



電源に調光信号を入れる場合



コンバータ・スレーバに調光信号を入れる場合



●取り付け

スイッチボックスはJISC8340/8435 スイッチボックス1個用（別売）に適合します。
電源線、負荷線の接続後、本機器をスイッチボックスにネジ（別売）で取り付けてください。
スイッチボックスへの取り付け後、同梱の化粧プレートをはめ込みます。
化粧プレートとプレート枠は箱底部に同梱されています。

<市販の接続プレートを使用する場合>

- ・神保電器J-WIDEシリーズはそのまま使用出来ます。
- ・パナソニックコスモシリーズワイド21 を使う場合には製品に付属しているスペーサを使って取り付け可能です。



警告

- ・負荷側にコンセントを設置しないでください。異常な発熱や火災の原因になります。
- ・誤配線や負荷の両端を短絡しないでください。機器が破損し、異常な発熱や火災の原因になります。
- ・不完全な取り付けは、落下の原因になります。

04 操作について

調光つまみを回し、お好みの明るさに調光してください。
調光つまみを最小にしても消灯せず、微弱な電流が流れ続け点灯します。消灯時はスイッチを切り替えてください。
仕様上、スイッチをOFFにすると照明器具が消灯前にフラッシュ点灯します。



注意

- ・使用時、内部素子の発熱により、プレートやつまみが温かくなることがありますが、異常ではありません。
- ・スイッチ切り替え時のフラッシュ点灯は異常ではありません。
- ・異なる機器を混在して使用する場合、調光特性の違いから、つまみの動作と各機器の明るさに差が生じます。

- ・オーディオ機器などの近くで使用すると、雑音が入ることがあります。
- ・以下のような対策を行うことで改善される場合があります。
 - ・オーディオ機器のアースを取る
 - ・アンテナを張る
 - ・本機器とオーディオ機器やその配線とは1m以上離す

2023.10.20